

# コミュニティスクール 取り組みのポイント

学校を地域に開き、地域と共に教育を実践している中沢小学校の取り組みは、中沢小学校だからこそできることでしょうか。教頭の高木先生は、「都市部の学校でも、農村地帯の学校でも、どの学校にだってできる」と何度も強調しておられました。そのポイントを整理しました。

## 1. 学校の現状を共有する

先生方がどれだけの業務量を抱えているか、学校がどんな課題を抱えているか、どんな子どもたちが学んでいるか、いわゆる「学校の憂鬱」を地域の人々は知りません。学校はそれだけ、地域の人には敷居が高いのも事実です。学校の現状を共有し、地域の人は何ができるのかを、一緒に考える必要があります。

## 2. 保護者も地域の住民

ゲスト講師を招いて昔の遊びを教わったり、畑や田んぼを作ったり。学校に関するボランティアは、比較的高齢の方が多い傾向があります。しかし、もっと学校にとって身近な地域住民は、保護者です。保護者の持つ力やネットワークを活かすことで、活動者の幅が広がります。また、学校の中に三世代のつながり、学び合いが生まれてきます。

## 3. 学校を地域に開く…

### 助けられ上手がネットワークの秘訣

子どもたちと関わりたい、学校を助けられるという人は地域にたくさんいます。そんな人々と連携していくためにはまず自らを開くことが大切です。「助けて」と言えば、助けてくれる人がいます。「助けられ上手」が地域をつないでいきます。中沢小学校では、メール配信や学校ブログでこまめに「助けて」と言い続けています。

## 4. 地域の夢を共有する

地域で育つ子どもがどんな子どもになってほしいか。学校がある地域はどんな地域であってほしいのか。その「夢」を共有することで、地域と学校は仲間になります。「地域の教育力を活かす」というのは、地域の力を借りて子どもたちを育てていくことであると同時に、地域にとっては地域の担い手である子どもたちを育てていく目的も持っています。学校は、地域づくりの拠点でもあるのです。

中沢地区の皆様へ

中沢小学校応援隊運営委員会  
委員長 木下 幸安  
中沢小学校長 田加 静夫

## 108人は中沢の宝！ ～応援隊にご協力をお願いします～

香川県、中沢地区の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。地域の皆様に変えられて中沢小学校にも17名の新入児童を迎え、開校142年目のスタートを切る事ができました。全校児童108名、昔に比べて、この子たちは、中沢の将来を背負う宝です。本年度もまた、地域全体で子どもたちを応援してください。

中沢小学校は昨年より、「文部科学省コミュニティスクール指定のための研究推進室」として、学校と地域が連携して子どもを育てる取り組みを研究して参りました。本年度も学校と地域が「こんな子どもを育てたい」という願いを共有しながら、一体となって子どもを育てる仕組みを構築したいと考えております。

活動の柱となるのが、中沢小学校応援隊です。平成24年度の発足より3年目を迎えますが、地域の皆様のご協力を得て昔の遊びから体験的な活動、環境整備まで、様々な場面で子どもたちを支えてきています。本年度は、5月から2月まで毎月17日を「応援隊の日」とし、休日学校を開放し地域の皆様との連携を深めていきたいと思います。

中沢小学校は「中沢を知り、中沢を愛する子どもたちを育てる」を学校経営ビジョンの第一に掲げて活動して参ります。皆様のご理解とご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

本年度の応援隊の日  
5月16日(金) 6月17日(火) 7月17日(木)  
9月17日(水) 10月16日(木) 11月17日(月)  
12月17日(水) 1月16日(金) 2月17日(火)

## 応援隊を停滞させる3つの誤解 学校なんてよほどのことがない限り行けないわよね！ 応援隊はおじいちゃんやおばあちゃんの活動じゃん！ 子どもに教える知識も、時間も余裕もないし…

平成26年2月27日 文科省CS推進官先生講演より  
「学校の憂鬱」を保護者や地域へ知らせよう。  
教員が支援を必要としている背景…

Q1 全国の小中学校の教員数は？  
⇒67万人。全人口1億2千万の0.5%。1/200  
先生にすべてを押しつけ、学校が悪いはおかしいよ。  
Q2 その平均年齢は？  
⇒43.3歳（高齢化）  
しかも小中学校は7割が女性教員。学力向上、キャリア教育、体験活動推進と要求は高まり、現場は一杯。  
Q3 通学路、登下校中の事故の責任は？  
⇒学校。現実的じゃないよ。目が届くわけない。子どもから「進路」を奪ってるし。  
Q4 新学習指導要領での必修科目は？  
⇒武道とダンス、小学校で英語。全部できるスーパー先生なんていませんよ。

だから、保護者や地域の人は学校を応援しよう！  
【同じ空で同じ時間を過ごす、そこから育まれる愛こそ本物】

## さらに！ 保護者の皆様気軽に学校の活動に参加していただく機会を増やそうと構想中 「応援隊チョコと部隊」

『応援隊チョコと部隊』に登録していただき、平日の空いている時間(30分程度)をお知らせください。「帰りの作業に人手が足りない」、「調理実習の下準備をお願いしたい」、「お茶室にお茶の準備をしてほしい」、「プリントの印刷をお願いできないかな」、「お散歩についてほしい」、「カワフナ探りに一緒に来てほしいかな」といった先生方のチョコとしたお声掛けをいただくと、後援者部隊を編成してみたいと思っています。委員の多忙を軽減すると同時に、お仕事が忙しくて、授業参加行事に学校へ来れない方も、普段のお子さんの活動の様子が見られます。

本年度から応援隊コーディネーターとして4名の方が毎日学校にボランティアに来てくださいます。ここに保護者も加われば、常に学校に地域の方がいて、地域を挙げて学校を運営する強力な応援隊ができます。後日正式にお会いをしたいと思います。応援隊はPTAが変える！そんな組織になればと願っています。

協力：駒ヶ根市立中沢小学校、中沢小学校 応援隊運営委員会の皆さん  
中沢小学校 保護者の皆さん

中沢地区の全戸に配布した「応援隊員募集」のチラシ(上)  
と「応援隊チョコと部隊募集」のお知らせ(下)

発行日：平成27年1月20日 発行：社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 地域福祉部 ボランティア振興グループ  
〒380-0928 長野市若里7-1-7 TEL.026-226-1882 FAX.026-228-0130  
E-mail vcenter@nsyakyu.or.jp URL http://www.nsyakyu.or.jp/

## 地域の中に学校がある、学校の中に地域がある 駒ヶ根市立中沢小学校の毎日



## 事例の概要

駒ヶ根市立中沢小学校は、明治42年に地域の人の寄付によって建てられた学校です。昭和30年代には900名の児童が在籍したことがありましたが、今では地域に若い人も減り、児童数は108名となりました。

地域の皆さんによって建てられた中沢小学校は、創立以来地域にとって大切な場所でした。そうは言っても、やはり学校は、児童の保護者でもない、ちょっと行きにくい場所でした。

## 地域の人々が気軽に訪れる学校

ところが、今の中沢小学校には、そんな学校の敷居の高さは感じられません。「リンゴが採れたから食べて」「マツタケが出てたから持ってきたわ」…職員室には、地域の人々がひっきりなしに訪れます。授業をのぞくと、先生の他に地域の方がいて、定規の構え方を教えていたり、音読を聞いていたり、一緒に歌を歌ったりしています。

平成24年度から、ボランティアの「中

沢小学校応援隊」が活動しています。環境美化や、放課後の宿題の指導を手伝ったり、炭焼き、田んぼ作り、ホタルの飼育、書道や墨絵の指導など、子どもたちに教えた得意技を持つ人たちが集まっています。

さらに今年度からは、4名の学校支援コーディネーターが地域とのパイプ役として日替わりで勤務しています。保護者を中心とした「チョコと部隊」も発足。「ちょっとだけ助けてください!」というメールが、学校から保護者に届きます。メールを見たお母さんたちがやってきては、子どもたちと先生を助けてくれます。保護者のお友達、近所の人…学校に入りする地域の人の輪は、どんどん広がっていきました。「チョコと部隊」で授業のお手伝いに来たお母さんたちが、思いがけず新しいことを学んだりする場面も見られます。

こうして集まった地域の人々が、また新しい提案してくれます。「中沢も昔は賑やかだったけれど、すっかりさみしく

なったなあ」と、子どもたちが集まって遊べる「駄菓子屋さん」を、月に1度開いてくれました。「ボン菓子」の実演や紙芝居など、楽しいものをみんなが持ち寄って大賑わい。駄菓子屋さんには、小学校に上がっていない小さな子ども、大人たちもやってきました。小さな後輩も、お父さん、お母さんたちも、おじいちゃん、おばあちゃんも、中沢のみんなが集まる学校。多世代交流と呼ぶにはあまりに自然な、地域そのものが、中沢小学校の中にあるのです。

## 学校から中沢を元気に

子どもたちに中沢の良いものを伝えたい地域の人々と、猫の手も借りたいほど忙しい先生方。学校から中沢を元気にしたい、中沢を知り、中沢を愛する子どもを育てたい、という思いを共有しています。様々な世代の人が集い、学び合う。中沢小学校は、「子どもと共に地域も育つ」場となっています。





